

研究課題「初診から切除までの期間が肺癌術後予後に与える影響」へのご協力のお願い

初診時から進行肺癌が疑われる場合や巨大肺腫瘍を認めた場合、早期に手術を行う事を考慮する事が多いですが、初診から治療開始までの期間が予後にどのような影響を及ぼすかは明確な答えが出ておりません。そこで、肺癌手術患者様において、初診から切除までの期間が予後にどのような影響を与えるか検討を行います。

【対象となる方】

2006年1月1日から2016年5月31日までに当院呼吸器外科で原発性肺癌に対する手術を受けられた方です。

本研究は自施設内自主研究です。

日本赤十字社医療センターで治療・検査のために行われた手術に関する入院カルテや外来カルテの診療記録、X線写真、CT、PET-CTなどの診断のために行われた画像および病理組織診断のデータを用いた解析であり、手術を既に受けられた方に、この研究のために新たな検査や治療を行うものではありません。

この研究にご協力いただくかどうかは、研究参加者の皆様の自由意志に委ねられています。なお、研究にご協力いただけない場合にも、皆様の不利益につながることはありません。ご意見、ご質問などがございましたら、お気軽に下記までお寄せください。

またこの研究は、日本赤十字社医療センター臨床研究倫理委員会の承認を受けて実施するものです。

【連絡先】

日本赤十字社医療センター 呼吸器外科 寺田百合子、古畑善章
TEL; 03-3400-1311, FAX; 03-3409-1604